

令和2年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

目指す生徒像	1 自他の生命を尊重し、調和の取れた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
--------	---

重 点 目 標	1 自立に向けた生徒指導の展開	達成度	A	達成・・・（3.0以上）
	2 学習環境の整備と健康・安全教育の推進		B	概ね達成・・・（2.5以上）
	3 学力の向上		C	やや不十分・・・（2.0以上）
	4 探究型学習の推進		D	不十分
	5 進路指導体制の充実・強化			
	6 魅力ある開かれた学校づくり			
	7 校務情報化の推進			
	8 教職員倫理の醸成と健康管理や働き方の改善への対応			

評 価	4	達成
	3	概ね達成
	2	やや不十分
	1	不十分

↓「評価」()は昨年度

自 己 評 価					学校関係者評価		総 括	
番号	評 価 項 目	具体的方法と指標・基準	評価	達成度	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等		
1 自立に向けた生徒指導の展開	さまざまななかかわりによる自他の生命の尊重と違いを認める態度の育成	・生徒面談により、生き方や良好な人間関係の構築について考えさせ、健全な成長を導く。 ・各分掌と連携した情報共有と機会を捉えた生徒状況把握による指導上の諸問題を早期発見する。 ・アンケートや面談によりいじめの実態を把握する。 ・スクールサイン事業やいのちの講話及び各種講演会等を通して、いのちの教育を推進する。	3.2 A (3.3)	A	・タイムマネジメントについて意識は高まりつつあるので、行動面での変容までを働きかける。 ・学校いじめ防止基本方針のもと組織的・計画的な取り組みを推進する。いじめに関するアンケートとスクールサインについて迅速な対応を行う。 ・校内での適切なスマホ利用を指導する。とともに、生徒自身に考えさせる。 ・ネット被害等について講演等により生徒の啓発を行う。 ・自治会行事について、今年度の経験を踏まえ生徒の発想をより取り入れながら、新たな行事の在り方を検討する。 ・行事の意義、実施の仕方について本来の目的を確認しながら改善を図る。 ・自転車保険への全員加入を推進する。	・コロナ感染対策の中での苦労は十分想像できる。 ・小・中学校でのICT活用が格段に進んでいく。その先の教育現場としての対応を用意すること。 ・地区内ほとんどの小・中学校でエアコン整備が完了する。高校の学習環境整備も進めるべき。 ・小学校での英語教科化に伴い、中学校の英語学習に変化が訪れる。これを踏まえて、例えば英検2級以上を全員取得するなど、具体的な到達目標が高校でも求められてくる。 ・少子化が続く中で私学との競合は避けられない。 ・地域では、大学への合格実績にはこだわりと期待がある。	・コロナ禍の中で、したいこと・できること・すべきこと、をその都度判断しながら、継続した学習指導と代替えも含めた創意工夫をこらした教育活動を実践できた。 ・ICT関連については、一部の教員にとどまり、活用度にはある程度の差が認められていたが、コロナ禍を契機に活用範囲の拡大と関連設備の整備を大きく進めることができた。 ・休校による授業の欠損部分を平日の授業時数を増すことで、ほぼ従来通りに確保することができた。 ・実施できなかった学校行事等が、生徒自身の発想で新たな形で実行され、改めて生徒たちの主体性、実行力を認識できた。 ・授業時間確保のための7校時授業日の増加や各種大会の中止や縮小がなされる中、各部で活動目標を明確にするなど意欲を失うことなく活発な活動を継続することができた。	
	「興譲館3DOC」の育成を目指した学習指導、部活動、学校行事、生徒自治会活動の推進	・学習指導目標に3DOCの特にどの力をつけさせたいかを明確にする。 ・コロナ禍の中で学校行事、自治会活動等について、生徒の発想を中心に据え、実施可能な方策や形態を生徒とともに考える。 ・実施可能な範囲・方法で外部生徒との交流を継続する。	3.2 A (3.0)				・ICT関連については、一部の教員にとどまり、活用度にはある程度の差が認められていたが、コロナ禍を契機に活用範囲の拡大と関連設備の整備を大きく進めることができた。 ・休校による授業の欠損部分を平日の授業時数を増すことで、ほぼ従来通りに確保することができた。 ・実施できなかった学校行事等が、生徒自身の発想で新たな形で実行され、改めて生徒たちの主体性、実行力を認識できた。 ・授業時間確保のための7校時授業日の増加や各種大会の中止や縮小がなされる中、各部で活動目標を明確にするなど意欲を失うことなく活発な活動を継続することができた。	
	校内外での諸活動の実践による、地域貢献の態度の醸成と自己有用感を高める指導の展開	・オンライン、リモート開催を中心に、各種行事、催事等を周知し自主的な参加を促す。 ・除雪ボランティアでの地域貢献を行う。	3.1 A				・体育文化後援会からピロティの人工芝化改修を行っていただいた。 ・探究活動について発表会の形態変更や中止がなされる中、校内にとどまらない活発な探究活動を実践することができた。 ・興譲館3DOCの育成を目指し、「未来創造プログラム」を踏まえた教育活動を推進できた。 ・特に「自己効力」測定による評価方法の職員研修会を外部講師を招聘・実施し、理解を深め知見を共有したうえで教育実践に当たった。 ・SSH指定第3期4年目、実施できなかった事業もあったが、ICT関連設備の整備を大きく進めることができた。また、今年度採択された科学技術人材育成重点枠として新設したコースでは広く地域企業や人材との連携を進める端緒を開くことができた。 ・2年探究科海外研修は早期に中止とし比較的早い時期から代替事業を検討・実施することによって本来の目的に近づくことができた。	
	タイムマネジメントによる生活習慣の確立	・ノーチャイムについて、その意義を理解させ、日常の声掛けや立哨指導等による意識付けを継続する。 ・登校時刻厳守、各種行事での移動時間の短縮について意識を向上させる。 ・生活学習時間調査を効果的に活用する。	2.9 B (2.9)					
2 学習環境の整備と健康・安全教育の推進	種々の検診や調査、教育相談を活用した、生徒の健康安全管理能力の育成	・「避難訓練」の効果的な実施により生徒の防災意識と実践力の向上を図る。 ・交通安全・薬物乱用防止の講話を通して好ましい健康行動の醸成を図る。 ・効果的な教育相談の実施と適時的にカウンセリング委員会を開催する。 ・毎日の健康観察、保健委員による除菌作業等を通して、感染防止の意識と行動を定着させる。	3.2 A (3.1)	B	・危機管理マニュアルの内容を吟味し、見直しを継続的に進める。 ・様々な災害を想定した避難訓練のあり方を検討する。 ・メールサービスシステムへの全員登録の推進を図る。 ・メールサービスシステムの活用範囲の拡大を図る。 ・授業終了時刻を厳守し清掃開始時間を徹底することで、生徒美化意識をより高める。 ・感染症防止策を今以上に定着させ、安全な学校生活が継続できるようにする。また、感染者発生時に適切な対応が迅速にできるよう体制を整備する。 ・休日も含めた健康観察のあり方について継続検討する。 ・カウンセリング委員会で情報交換と支援策を検討するなどし、効果的に且つ適切に対応する。 ・清掃活動を丁寧に行うとともに、定期的な安全点検の実施と対応を行う。	・コロナ禍のように思いがけない不幸や事故に遭遇して、生きる力を失うのではなく、苦を受け入れて一人ひとりが解決策を求めていく姿勢を大切に。 ・米沢市の雪灯籠まつりでは、高校生が灯篭づくりを通して大人から学ぶ姿もある。社会とのつながりの中でキャリア形成に結びつくこともある。 ・興譲館同窓生の力を頼りにしてほしい。 ・コロナ禍に伴うリモート学習の有効性は理解するが、生徒には本物を見抜く力をつけてもらいたい。 ・探究科としての難関大学進学者数も含めた学力向上の実績を示してもらいたい。 ・市内高校の再編計画が進められる中、新設校との競合のあり方についての模索が必要。興譲館の実態を中学生・保護者がより理解しやすい方策を考案すべき。	・探究活動について発表会の形態変更や中止がなされる中、校内にとどまらない活発な探究活動を実践することができた。 ・興譲館3DOCの育成を目指し、「未来創造プログラム」を踏まえた教育活動を推進できた。 ・特に「自己効力」測定による評価方法の職員研修会を外部講師を招聘・実施し、理解を深め知見を共有したうえで教育実践に当たった。 ・SSH指定第3期4年目、実施できなかった事業もあったが、ICT関連設備の整備を大きく進めることができた。また、今年度採択された科学技術人材育成重点枠として新設したコースでは広く地域企業や人材との連携を進める端緒を開くことができた。 ・2年探究科海外研修は早期に中止とし比較的早い時期から代替事業を検討・実施することによって本来の目的に近づくことができた。	
	教育活動全般の危機管理体制の整備と施設設備の安全点検の推進	・「危機管理マニュアル」の点検と周知徹底を図る。 ・メールシステムを効果的に活用する。 ・毎月安全点検を実施し、不備に対応するとともに、職員一人ひとりの危機回避意識の向上を図る。	3.3 A (3.0)				・特に「自己効力」測定による評価方法の職員研修会を外部講師を招聘・実施し、理解を深め知見を共有したうえで教育実践に当たった。 ・SSH指定第3期4年目、実施できなかった事業もあったが、ICT関連設備の整備を大きく進めることができた。また、今年度採択された科学技術人材育成重点枠として新設したコースでは広く地域企業や人材との連携を進める端緒を開くことができた。 ・2年探究科海外研修は早期に中止とし比較的早い時期から代替事業を検討・実施することによって本来の目的に近づくことができた。	
	校舎内外の清掃の徹底と美化活動の推進	・清掃箇所を明確にし清掃指導の徹底、用具の管理の徹底と定期的な衛生用具の点検・補充をする。 ・清掃強化週間を複数回設定し実施する。 ・定期的に美化委員による点検活動を実施する。	2.9 B (2.8)				・探究科としての難関大学進学者数も含めた学力向上の実績を示してもらいたい。 ・市内高校の再編計画が進められる中、新設校との競合のあり方についての模索が必要。興譲館の実態を中学生・保護者がより理解しやすい方策を考案すべき。	
	生徒課と保健課の連携による生徒自治会活動の充実と支援を要する生徒理解の推進	・生徒の学校生活実態調査を実施し、充実した高校生活に資する。 ・配慮や支援を要する生徒の情報共有と、特別支援計画・指導計画を作成する。	3.1 A (2.9)				・多様な情報が錯綜し、国の施策では一般にわかりにくい用語・句なども使用される中で、きちんと情報を共有し本来の力が発揮できるよう、専門性、倫理観、他をリスペクトできる教養を身につけ、伝えられる形の習得をお願いしたい。 ・休校になった時に、教育を継続できるか。どうやって可能とするのか、家庭のネット環境を踏まえたうえで構築していくことが重要。	
3 学力の向上	「興譲館3DOC」を目標に据えた、「自己効力」を高める授業の展開と評価の実践	・年間指導計画表による授業点検を行い、生徒が見通しを持った学習ができるよう学習計画表を配付する。 ・生徒の自己効力が高まるよう、学年団や教科担当者を中心に生徒面談を行う。 ・各教科で多様な評価を実践するとともに、一層適正な評価基準の確立に努める。	3.2 A (2.9)	A	・新学習指導要領の実施に向けた、教育課程の編成を計画的に進める。 ・新任者への興譲館3DOCの説明・周知を行い、職員の共通理解を途切れないようにする。 ・よりICTを有効に活用できる環境整備を進め、活用範囲の拡大と質の向上を図る。 ・指導力向上を図る教員研修を継続実施する。 ・評価の観点とその方法をより整理するとともに、3DOCのどのような力につながるのかを明確にする。 ・生徒のシラバスの有効活用について研究する。 ・授業評価を継続し、授業改善に資するよう工夫する。 ・評価法についての職員研修をさらに深める。 ・授業第一主義を徹底する。	・コロナ禍のように思いがけない不幸や事故に遭遇して、生きる力を失うのではなく、苦を受け入れて一人ひとりが解決策を求めていく姿勢を大切に。 ・米沢市の雪灯籠まつりでは、高校生が灯篭づくりを通して大人から学ぶ姿もある。社会とのつながりの中でキャリア形成に結びつくこともある。 ・興譲館同窓生の力を頼りにしてほしい。 ・コロナ禍に伴うリモート学習の有効性は理解するが、生徒には本物を見抜く力をつけてもらいたい。 ・探究科としての難関大学進学者数も含めた学力向上の実績を示してもらいたい。 ・市内高校の再編計画が進められる中、新設校との競合のあり方についての模索が必要。興譲館の実態を中学生・保護者がより理解しやすい方策を考案すべき。	・探究活動について発表会の形態変更や中止がなされる中、校内にとどまらない活発な探究活動を実践することができた。 ・興譲館3DOCの育成を目指し、「未来創造プログラム」を踏まえた教育活動を推進できた。 ・特に「自己効力」測定による評価方法の職員研修会を外部講師を招聘・実施し、理解を深め知見を共有したうえで教育実践に当たった。 ・SSH指定第3期4年目、実施できなかった事業もあったが、ICT関連設備の整備を大きく進めることができた。また、今年度採択された科学技術人材育成重点枠として新設したコースでは広く地域企業や人材との連携を進める端緒を開くことができた。 ・2年探究科海外研修は早期に中止とし比較的早い時期から代替事業を検討・実施することによって本来の目的に近づくことができた。	
	「質問力」の向上と自ら考え主体的に学ぶ姿勢の育成	・3DOCをシラバスに掲載する。 ・職員研修会の実施、授業研究期間や授業公開日を設定し、相互研修・指導力向上を図り、生徒の主体的活動を引き出すよう研修する。 ・生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すよう、探究的な学びを推進する。	3.0 A (3.0)				・探究科の動きや探究的な学びについて、中学生及び保護者を対象としたオープンキャンパスにおいて生徒自身の発想と実践に委ねる部分を大きくし、参加者からは好評を得ることができ、そのことが探究科の理解を促すことにもつながっていると思われる。	
	教科指導力の向上を図り自らがアクティブラーナーとなる研修会の充実	・自己効力向上や評価法について、外部講師を招聘し研修会を複数回実施する。 ・生徒情報共有会議を活用した個に応じた指導法を実践する。	3.1 A (3.0)				・新たな未来創造プログラムを、探究的な学びやSSH事業と関連付けながら実践した。	
	普通科、探究科のねらいと生徒の実態を踏まえた教科指導と授業の改善・工夫	・年2回の生徒による授業評価を通して、授業改善のために授業点検を実施する。 ・適切な周知、課題の設定により、表現活動へのより積極的な取組みを促す。 ・ICTを活用した学習方策の研究、試行。	3.1 A (2.9)					
	新学習指導要領による教育課程の編成	・カリキュラム評価委員会を中心にした新教育課程に関する検討会、及び県教委とのやり取り。	3.1 A		・多くの人数が属する高い評定段階で、より高レベル段階を目指す評価のあり方を研究する。			

自 己 評 価					学校関係者評価 意見・要望・評価等	総 括		
番号	評 価 項 目	具体的方法と指標・基準	評価	達成度	次年度に向けた改善策			
4	探究型学習の推進	探究型学習推進委員会による学校全体での取組みの推進	・SSH事業を活用し、ICT関連設備の整備を図る。 ・全校体制での生徒課題研究発表会の運営を行う。	3.2 A (3.1)	A	・3期目のSSH指定における事業を点検・整備するとともに、科学技術人材育成重点枠を最大限活用する。 ・生徒の国際的視野が広げられるようなSSH事業を展開する。 ・SSH事業に関する校内業務のあり方を業務負担軽減の観点から行う。 ・第4期SSH申請準備を進めるとともに、SSH及び探究活動の成果と課題を全職員で検討・共有する。 ・SSH事業のいわゆる文系領域での活用度・範囲の拡大を図る。 ・成果発表会のあり方について、変更した実施時期・系列の選抜の仕方等を検証し、必要な改善を図る。 ・高等教育機関・関係教育機関とは継続的に連携する。 ・連携する企業の拡大と連携の一層の深まりを図る。 ・ESDエキスパート制の年間構成、コース設定、東京研修との係わりなどを再考し、学習活動の一層の改善を図る。 ・FSでの発想法・思考法開発の訓練形態を早期に体験し、3年間の中で体験的学習を通してより効果的に高められる学習計画の検討を継続する。	・地域創生のためにローカル・地元の重要性に気付いてほしい。Localからglobalへ発展するためにも、地元の良さに目を向ける心を養ってほしい。 ・幸せになるための科学技術、住みよい社会をつくるための要因を、目指したい地点から振り返り明らかにしていく思考で教育を進めてほしい。デジタルサイエンスを活用できることはこれからの社会を生きていくうえで極めて重要。	・エキスパート制度を活かした1年東京探究研修の代替えとしての講座を実施した。コース担当者と探究課職員の負担は大きかったが、質の高い講座を実施することができた。 ・SSH事業に係り職員数の増はあるものの、相当の負担感は否定できない。業務の分担や執行の仕方について見直す必要もある。 ・コロナ禍の中であったが、保護者とともに、朝の立哨指導を継続することにより、生徒理解を深め登校の安全を確保した。 ・メールサービスを有効活用し、各分掌等で学校の情報を適時的に発信した。EdmodoとG-suiteを活用しているが、まだその方法と範囲について研究の余地がある。 ・スクールカウンセリングを有効に活用し、生徒理解が深まり生徒の適応支援につながった。 ・HPを更新し、より即時的な更新を行うことができた。
		興談館版「未来創造プログラム」による探究型学習の推進	・FSの充実により、より自発的な学習意欲の発現を促す。 ・発想力・思考力の向上を図る学習方法の試行に取り組む。	3.2 A (3.1)				
		ESD (ESD for 2030) エキスパート制を機能させた探究活動の充実	・エキスパートリーダー会を適宜開催し、情報共有を図る。 ・外部連携の情報を速やかに共有し、外部教育資源の活用を果進する。	3.2 A				
		ユネスコスクール指定後の教育活動内容と関連事業の確認と推進	・ユネスコスクール指定の動きが停止。関連事業の再考。	D (2.6)				
		中間ヒアリング結果を受けた第3期SSH研究開発事業の推進と4年目の実践	・科学技術人材育成重点枠を活用したアントレプレナー養成コースの新設。 ・SSH経験卒業生へのアンケート調査を行う。	3.2 A				
		研究報告や種々の情報収集による次期SSH研究開発事業の研究	・SSH運営指導委員会での指導事項を実践する。 ・探究講座の充実を図る。 ・海外研修を実施する。	3.2 A				
		地域の高等教育機関や企業と連携した教育の一層の推進	・FSで外部講師による講座、演習を実施する。 ・アントレプレナー養成コースにて地域企業との連携を図る。	3.4 A				
5	進路指導体制の充実・強化	探究科の教育課程に係わる中学校・保護者・地域の方々への周知	・探究科による海外研修を実施する。 ・リモートでの海外校との交流を実施する。	3.1 A (3.3)	A	・探究科及びSSH継続指定を反映した、より効果的なキャリア教育を推進する。 ・入学初期の学力を踏まえた指導の在り方を検討する。 ・3年間の系統立てた指導の一層の充実と、志望校決定に向けての面談等に早期に取り組む。 ・学校推薦・総合型推薦入試指導を全職員体制で早期から実施を継続する。 ・推薦制度を活かした入試について、生徒の一層の理解を促す。 ・各種コンテストへの参加を継続的に推奨する。 ・キャリア教育により関連するESDエキスパート制を実践する。 ・大学共通テスト関連の情報を的確にとらえ、必要な情報を発信する。 ・学校推薦・総合型推薦と一般入試指導の適切なバランスに基づいた指導体制を構築していく。 ・「生徒未来創造会議」「生徒情報共有会議」の意義と狙いを再確認し、より実効性を高める。 ・FS、SSR等の活動がより効果的に3年で学力向上につながるようにする。	・SSH第4期申請に向かうということだが、答えをすぐに求めるのではなく、考える力や習慣をつけてほしい。自分で問題意識を持つことが大切。 ・リモート機能により、地球規模での人とのつながりが持てる時代である。より広範囲な人たちとの連携を持ってほしい、と同時に地域・故郷とのつながりも大切にしてもらいたい。 ・HP関連の評価は低めであるが、学校として発信する機会は多かったと思う。進路説明会を分散開催するなど、情報発信方法には工夫と努力が見られる。	
		キャリア教育実践プログラムに基づく高い志を育む指導と系統的な進学指導の推進	・難関大学進学指導体制の充実と指導力の向上を図る。 ・K I Tや友于会を通して、高い志を維持した進路指導を実施する。	3.3 A (3.1)				
		個に応じた進学希望を実現するための組織的支援体制の充実	・担任、及び進路指導室員による生徒面談を随時実施することで、生徒の多様な進路志望へ対応する。 ・探究課・教務課を中心に、他分掌との連携を強化し、S S H事業のより一層の推進を図る。 ・個別の検討がより有効な指導になるよう、一層の学年との連携を図る。 ・各種コンテストへの積極的な参加を勧奨する。	3.3 A (3.1)				
		学校推薦型選抜と総合型選抜の指導体制の充実と情報収集	・全職員体制での対応を継続する。	3.2 A				
		「生徒未来創造会議」、「生徒情報共有会議」による全職員共通理解による一人ひとりの能力を引き出し育む指導の推進	・年2回ずつの開催により、生徒の情報を全職員で共有し、個々に応じた進路指導を実践する。 ・資料を随時閲覧できるようにし、日々の生徒指導に活かせるようにする。	3.0 A (2.8)				
6	魅力ある開かれた学校づくり	大学入試改革等に関する研修会への参加や不断の情報収集	・大学入学共通テスト等の入試制度改革に関する研修会へ参加し情報収集、情報共有を行う。	3.2 A	A	・各種評価の内容を点検・検討する。また、方法を確認するとともに引き継ぎ事項を整備する。 ・各種評価による改善事項をまとめ、次年度に繋げる。 ・三団体との連携を継続する。 ・HPのより有効な活用範囲を検討し、適切なページ構成を図る。 ・HP、メールシステムでの学校・保護者間双方向の連絡体制整備を検討する。		
		各種評価及び学校関係者評価委員会の効果的な実施とPDCAサイクルの推進	・生徒による年2回の授業・学校生活評価、保護者による学校評価、及び教職員による自己評価を実施し、授業改善、教育活動へ活用する。 ・年2回の学校関係者評価委員会の実施により、助言内容を本校教育活動改善へ反映させる。	3.2 A (3.1)				
		保護者・地域との連携、社会参加活動の推進	・保護者向け進路説明会を実施し、情報提供と啓発活動を行うことで連携を図る。 ・保護者の本校教育活動への参加意識の高揚を図り、広報活動やHPにより情報を公開する。	3.0 A (3.1)				
		学校ホームページの充実と広報活動の積極的推進	・各課、学年と連携し、ホームページを迅速に更新する。 ・生徒・保護者向けの情報提供のあり方を検討する。	3.0 A (2.8)				
7	校務の情報化の推進	説明責任に基づく事務処理	・事務部と連携し確かな事務処理を遂行する。	3.4 A (3.3)	A	・県が統一予定の校務支援ソフトへのスムーズな移行を行う。 ・グループウェア活用による業務の効率化を図る。 ・情報資産管理の徹底を図る。		
		校務支援ソフトの導入と効果的活用	・生徒の活動記録や学習の記録等の一元管理化と、正確かつ迅速な処理を行う。	3.1 A (2.9)				
8	教職員倫理・働き方改善	学校ホームページシステムによるタイムリーな情報提供とグループウェアの立ち上げ	・学校ホームページを更新しやすく刷新し、素早い情報発信に努める。 ・グループウェアを導入し、学校内での情報のやり取りをしやすくし、連絡事項が他の場面と重複しないよう使い方を定着させる。	3.1 A (2.4)	B	・年間計画の確実な実施により教職員倫理感の浸透を図る。 ・役割の分担化、分散化により業務量の軽減を図る。 ・中・長期的な展望での部活動のあり方を検討する。		
		年間計画作成による教職員倫理の醸成	・倫理委員会を中心として、適時的に綱紀粛正について触れる。 ・管理職から適時的に情報を発信する。	3.2 A (3.1)				
		働き方改革プラン第Ⅰ期、本校部活動方針を踏まえた業務の改善と多忙化の軽減	・策定した部活動方針に基づき適正に部活動を実施する。 ・校務分掌の分担化・分散化により、業務の軽減を図る。	2.2 D (2.1)				

自己評価、及び学校関係者評価に基づく改善点や検討事項等、他	1 教科・科目、日々の授業等における3DOC(domain of competence)向上のための具体策の検討 教科指導を通して獲得を目指す関連能力(competencies)の明確化 「自己効力」の評価から発達・成長への具体的支援策の実践（definition/assessment から encouragement/development へ） 2 SSH第3期までの成果を踏まえた、第4期申請に係る新たな視点での理念構築 STEAM教育の具体化（各領域の個別独立性と有機的関連性・融合性の検討） 思考法・発想法の反復体験 SSH関連業務の分担・効率化 科学人材育成重点枠事業 SSH事業・予算に頼らない科学教育・人材育成法の模索 3 通常学習の断続時も想定した、ICT活用学習の検討と実践 機器・環境整備 学習課題に適した、リモート体制・個別タブレット・大型視覚化機器等の活用方法の研究 4 SSH事業、探究活動とより有効に連携したキャリア教育実践プログラムの実践 3DOCを発揮し社会貢献が期待される場へ結びつく学力の向上 難関大学への挑戦 明確な将来像を描いた進路選択 5 新たな部活動体制の構築に向けた、地域人材・外部指導者の活用を中心とした中・長期的プランの作成と部分的実践 適正活動の推進（教育的志向、専門性・競技力志向、及びスポーツ性志向のバランス） 教員の働き方改革（休日指導、引率業務の負担軽減） 生徒数減に対応する地域クラブ化構想の検討
-------------------------------	---